

清音

第250号

発行所 木曾教育会

発行人 宮坂 寛

編集 木曾養護学校

第七十六回

木曾夏期大学を終えて

七月三十日(火)から八月二日(金)の四日間、今年度も木曾町文化交流センター



ーをメイン会場に各校をサテライト会場として、第七十六回木曾夏期大学を開催しました。一流の講師による講義をお聴きできる貴重な機会に、教職員はじめ先輩の先生方、地域の方や町村教育委員会の方など、四日間でメイン会場にのべ百五十五名、総受講者数はのべ三百三十二名の多くの参加がありました。

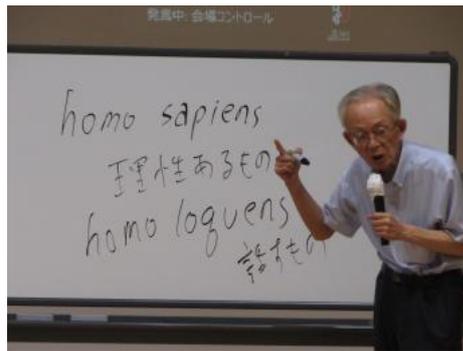
初日の「文芸」では、本年度から新たに講師としてお願いした 日本女子大学国際化学部の伊藤由希子准教授に「中島みゆき

「糸」から考える「仕合わせ」と「幸せ」のあわいと題し、「糸」の歌詞の「しあわせ」の表記が、あえて「仕合わせ」とされていることについて、はかりしれない大いなる力「おのずから」によって、仕合わせられた感受性があること等をご講義いただきました。事前に録音された音楽委員会による「糸」の美しい歌声も会場に流されました。

二日目の「時局」では、京都大学大学院 中西寛教授に「二つの戦争と世界のゆくえ」と題し、現在の世界情勢について、これまで積み重ねられた歴史や新しい国際情勢の流れ、感情やイデオロギー、コロナ・パンデミックなどが政治に大きく作用していて、今後の私たちの行動を決めていく要因になるかもしれないこと等について、ご講義いただきました。

三日目の「芸術」では、北海道教育大学 福江良純教授に「心棒—木曾と叡智の眼差し—」と題し、木曾馬像をもとに、石井鶴三先生の貫いた「心棒」の世界と

木曾の叡智について、最新のデジタル画像やワークシヨップ、石井鶴三先生の肉声も流していただき、ご講義いただきました。今年度五月の木曾教育会総集会でのご講演に引き続きのご講義となりました。



最終日の「哲学」では、筑波大学 伊藤益名誉教授に「理性の限界—AIは坂田三吉に勝てるのか?—」と題し、人間の理性は実は怖いものであり限界や欠陥があること、もし、将棋棋士の坂田三吉さんがAIと対戦したら、第一局目では「ひらめき」により坂田さんが勝つだろうこと等を



講義いただきました。

会員からは「専門にご研究されている先生方の最新の知見を拝聴し、大変刺激を受けました。」等の感想が寄せられ、参会者一人一人が求めて学ぶ中で、自らを問いただす有意義な機会とできたことがうかがえました。

木曾教育会副会長

丸山 美恵(日義小中)

木曾教育会 委員会

特活・人権教育 委員会より

子どもの多様性を尊重し、公正な学びや
ウェルビーイングを保障できる教師へ

令和五年度の特活・人権
教育委員会研究成果の一
つが「子どもたちと共にわ
くわくすることの重要性
がより明らかになったこと
でした。それは、「共同体感
覚」、つまり、縦の関係から
横の関係への転換の重要性
です。そのため、「教師観
の転換」が主な研究内容で
した。



特活・人権教育 委員会より

子どもの多様性を尊重し、公正な学びや
ウェルビーイングを保障できる教師へ

令和五年度の特活・人権
教育委員会研究成果の一
つが「子どもたちと共にわ
くわくすることの重要性
がより明らかになったこと
でした。それは、「共同体感
覚」、つまり、縦の関係から
横の関係への転換の重要性
です。そのため、「教師観
の転換」が主な研究内容で
した。

「教師観の転換」に関わり、
山口恒夫(2000)らの研究
がヒントとなりました。山
口らは、「教師の無力感、徒
労感、心の病を引き起こす
こと」と「理想との乖離が
大きすぎること」は、大き
な関係性があると論じまし
た。また、教師自身が「師
としての理想に近づきたい
と願えば願うほど、行動に
制限がかかり、「教師とい
う仮面」をつける元に繋が
ると述べたのです。その過
程における「子どもたちと
の共感意識の薄れ」が重要
な部分でした。

ある小学校の授業参観。
ペットボトルという材と向



き合い、船のオールづくり
に没頭しながら、スキルを
高めていったA児。その傍ら
には、A児の提案を尊重し、
共に材と向き合い、子ども
と共に楽しむ教師がいまし
た。

子どもたちは、授業とい
う枠組みを超えて、「一人
の人間としての先生」を見
つめていました。そして、共
に楽しみたい、味わいたいと
いう願いを持っていたので
す。

このようなことから、授業
づくりでは、「共にわくわ
くする」「共に楽しむ」とい

う要素が共感的な雰囲気
を生むことに繋がるのでは
ないでしょうか。また、その
「共に」という姿勢そのもの
が教師が「生き様」で語る
人権教育なのではないでし
ょうか。

特活・教育委員会

久保 勝哉(福島小学校)

ホームページ あり方委員会より



木曾教育会ホームページ
あり方委員会では、令和五
年度から、教育会ホームペ
ージの開設に向けた検討を
進めてきました。立ち上げ
や活用の方法、費用面の折
り合い等について検討し、

理事会にて承認が得られた
ため、令和六年度より開設
準備に入っています。

現在は、(株)飯田ケーブ
ルテレビ様の協力を得なが
ら、令和七年度からの公開
を目指して、委員四名で取
り組みを進めています。素
材収集と並行し、ホームペ
ージ開設後の持続的な運
用が可能となるように、他
郡市の動向調査や無理の
ないコンテンツ構成・運用
方法の検討を行ってきまし
た。

令和七年一月中を目途
に作成を進め、二月以降一
カ月間程度の試験運用期
間を経て、令和七年度から
一般公開する予定です。

ホームページあり方委員会
委員長 牧 友博(開田中)